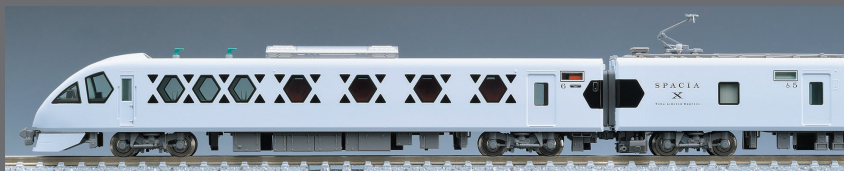
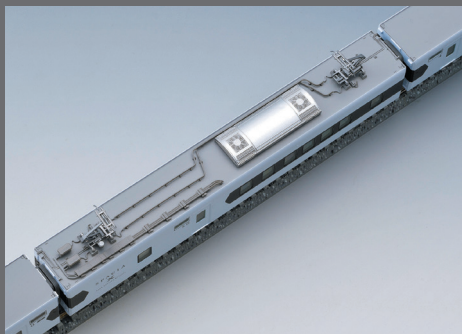




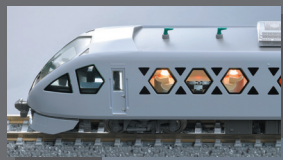
● 39個のLEDで構成される、実車の特徴的なヘッド・テールライトの点灯をリアルに見せるため、モデルは精巧なプリズムによって、これを再現しています。加えて、ヘッドライトのハイビーム時に、東武鉄道の「T」に見える点灯状態も併せて再現し、点灯にはヘッドライトが白色LEDを、テールライトが赤色LEDを用いています。また、前頭部のカブラーは電連付きタイプで、カバーが取り付けられたダミーカブラーを装着、各車の連結面側はボディマウント式密連形TNカブラー（SP）を装備しています。



● 車体側面の「スペース X」のロゴマークと号車番号、車いすマークは印刷し、車体番号は付属の転写シートにより（写真では未貼付）。また、前面、側面共に大きな窓に囲まれた運転室は、その内部をできる限り製作し、各車の車端部はボディマウント式密連形TNカブラー（SP）使用により、トイレタンクを始めとして機器等を実感的に再現しています。なお、各ドア下部の靴ツリは、ステンレスの質感を再現するべく銀色を差しています。



● パンタグラフを搭載する5号車N100-2と3号車N100-4では、屋根上配管の一部を別パーツとし、避雷器が付くリアルに模したPT7112形パンタグラフと、その横のヒューズボックス、各車にも搭載のCU7310形クーラーと併せて、屋根上を実感的に見せています。（写真はN100-2の屋根上）



● モデルは写真の6号車N100-1のcockピットスイート（写真上）、1号車N100-6のcockピットラウンジ（写真下）を始めとして、号車で異なる客室インテリアを立体的、かつ実感的に作り込んでいます。なお、cockピットスイートでは窓際のシェードランプを点灯可能とし、車内の雰囲気盛り上げています。



東武N100系スペース X セット(6両)

2023年7月、浅草と日光・鬼怒川エリアを結ぶ東武特急の長い歴史に、新たなページが加えられました。気品ある白をまとった新型車両は、永年にわたる東武特急の伝統を継承しながらも、さらなる進化を遂げたフラッグシップ車として開発されました。新型車両の形式は、革新的な車内設備を備えて1990年6月に登場した100系スペースXを踏襲しつつも、この車両が持つ未知なる可能性と変革（DX: Digital Transformation）、新型車両による旅の体験（Experience）、そして乗客に提供する多様な価値（Excellent, Extra, Exciting）を表す共通の「X」を末尾に、さらに頭に「N」を付して、N100系スペース X とされました。この「X」を車両デザインのモチーフとした同系は、日光線が通る鹿沼市の伝統工芸品である組子模様を取り入れ、窓枠を始めとして内外の各所にあしらひ、愛称ロゴにもそれをイメージさせる書体を新たに作って採用しました。また、多様な車種で構成される同系は、卓越したエクステリア・インテリアデザインのみならず環境性能も進化させ、モーター性能の向上などにより、100系スペースXよりもCO2排出量を大きく削減しています。

トミックスでは東武特急の100系スペースX、500系リバティに加えて、新たにN100系スペース X をモデル化いたします。ハイグレード仕様で6両フルセットの製品は、先頭車前頭部を始めとした各車の外観や、全6種ある客室インテリアを可能な限り再現しています。また、2号車のN100-5にはフライホイール付き動力ユニットを搭載、各車には新集電システム、銀色車輪を使用し、6両全車に専用の室内照明ユニットを装備します。

N100系 東武スペース X

東武N100系スペース X セット(6両)
<98824> 予価¥36,960 (税込)

東武鉄道株式会社商品化許諾済

7月発売予定